

東大EMP第20期プログラム 最終報告発表 概要

(2019年3月9日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
[チーム1] 石川 聡 香川 謙吉 小林 慶一 竹村 章敏	健康的で活力のある 超高齢化社会経営	稼げ バブル・氷河	<p>高齢化が進む日本の2030年、2050年はどうなるのか。</p> <p>我らバブル・氷河世代が圧倒的な当事者意識を持って、中核課題を明確にし取り組みを提示いたします。</p>
[チーム2] 池田 健勲 大井 裕子 坪田 正紀 中根 正喜 法亢 信彦	資源・エネルギー 活用の規律による 環境保全	地球との共存～支えとなる 思想の浸透～	<p>地球と人類の共存が危機に瀕している。自然と共生してきた日本ならではの思想を参考としながら、日本社会の羅針盤となるべき考え方を提示したうえで、資源・エネルギー活用の可能性に触れつつ、今我々が何をなすべきか明らかにしていく。</p>
[チーム4] 千葉 誠 原 穂 山口 順通 山本 亮二郎	多様な宗教、文化、 政治を前提とした 共通行動規範確立	多様な宗教、文化、政治を 前提とした共通行動規範 の確立	<p>年金・介護負担を巡る世代間分断、沖縄・普天間基地の移転を巡る混乱、満員電車でベビーカーを畳むべきか否か。最近の社会を見渡すと、様々な規模や切り口で分断が進んでいるように思われる。こうした様々な分断の原因には共通する課題があるのではないか。</p> <p>社会の分断の原因となっている課題をあぶり出したうえで、これを解決しうる共通行動規範を提言する。</p>



<p>[チーム5] 井上 博史 近藤 雅史 酒永 洋介 鈴木 大輔 松尾 誠志</p>	<p>先端科学・技術の 効用前提での 新世界観の形成</p>	<p>先端・科学技術の効用に 翻弄されない賢者になる ために</p>	<p>過去、科学・技術の進歩は、私達、人間の活動に多くの恩恵をもたらしてきた。今後も先端生命科学の発展に伴って革新的な医療技術が開発され、また、人間活動のデータ化の加速と人工知能(AI)技術の更なる進化が期待されている。</p> <p>一方、このような先端科学・技術の追求が辿り着く人間の未来はディストピアであると警鐘を鳴らす声がある。私達は、先端科学・技術の進歩が創出する未来像を今こそ見つめ直す必要がある。“人間らしさ”を喪失せずに生きる未来を築くためにも、この時代を生きる私達が、人間としての営みの根幹となる価値観を問い直しながら、先端科学・技術と賢く向き合うための一つの世界観を提示してみたい。</p>
<p>[チーム6] 青木 智之 石田 隆英 国井 孝浩 松本 理恵</p>	<p>日本の先進課題 設定とその解決の 能力向上</p>	<p>日本社会を「生きづらさ」から 解放</p>	<p>日本社会は、近代以降、西洋の価値観を無批判に導入しつづけたことで、生きづらい社会となってしまったのではないか。国際秩序が崩壊し、科学技術が急速な進歩を遂げる中、日本はいかに解決の糸口を見つけるべきか。日本が伝統的に培ってきた価値観を振り返ることで、解無き現代世界へ問いを立てるための鍵を模索する。</p>